

建協

### 鹿工生現場見学会

## 果たす役割伝える

県建設業協会(藤田慶会長)は10日、鹿児島工業高校の生徒を県内3現場に招き、見学会を実施した。各地の大規模な事業を通して、地元へ果たす役割とそこから得られ

るやりがいを伝えた。

見学会には、建設技術系2年生41人が参加。鹿児島市では、九州地方整

備局鹿児島港湾・空港整備事務所が発注した元年度鹿児島港(中央港区)岸壁ケーソン製作(森山(備組)を視察したほか、霧島市の新町線街路や西光寺道路改良の現場も訪れた。



大型事業の迫力や得られるやりがいを知った見学会。鹿児島市の現地

等の解説はじめ、地元のクルーズ拠点となる大型事業に携われる喜びなどが伝えられた。

生徒らは、ケーソンを目の前にすると、その圧倒的な規模に大興奮。県内就職を志している東陰馬さんは「インターンシップでもお世話になった現場。鹿児島で働く予定だが、地元の重要事業を目にできることはありがたい」と笑顔で語った。

加世田登業務部長は「近年は、ミスマッチによる入社後すぐの離職が目立っている。見る、触れることのできる機会が、生徒たちの職業選択に幅を持たせるきっかけになれば幸い」と願いを込めた。

た

協同加治木支部

### 加治木工高現場見学会

## 大規模橋梁に興味

県建設業協会加治木支部(塚田洋一支部長)主催の加治木工高現場見学会が18日行われた。土木科1年生39人(男子38人、女子1人)が大規模



地元建設業への就職促進へ毎年実施している見学会＝霧島市の現地

模範工事現場を見学し、建設業の役割や魅力に触れた。見学会は、次代を担う高校生に地元建設業への就職を促進しようと、毎

重堅司理事、福永和則監事、森園秀人事務局長が

年実施している。

この日は、県始良・伊佐地域振興局建設部の関山智

同行。地域に必要な道路や河川、橋梁などの現場を見学した。このうち、火山砂防・霧島川工区(霧島市)では、砂防堰堤がある場合、ない場合との比較ができるジオラマ模型で被害がどれだけ違うかを再現。生徒も実際に水を流し、砂防の重要性を学んだ。また、街路・新町線(同)では、大規模な橋梁現場を目の当たりし、その迫力に驚いていた。引率した郡山剛教諭は「実際の現場を見て興味を持ち、地元にも技術力の高い企業があることを感じてもらえたら」と述べ、生徒からは「普段見ることのできない現場や難しい橋の構造など勉強になった。今後の学習に生かしていきたい」と感想を語った。

鹿屋工高生徒が現場見学

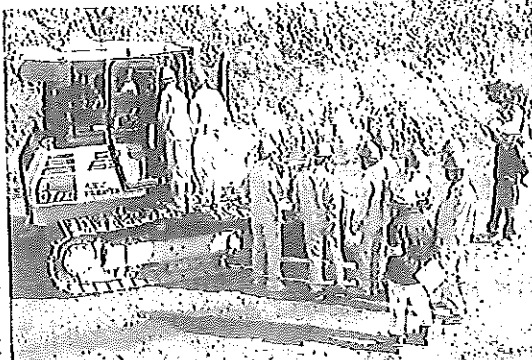
地元企業に就職を

鹿屋工高 鹿屋市建設

県建設業協会鹿屋支部(谷口幸司支部長)と九州地方整備局大隅河川国道事務所(吉柳岳彦所長)共催による現場見学会が21日、鹿屋市の東九州自動車道の現場で開かれた。鹿屋工業高校土木科1年生21人が参加。ICT建機の搭乗体験などを通して、最新の土木技術の知識を学んだ。

見学会は、地元建設業への就職を促進しようとして毎年実施し、今回で27回目。谷口支部長(肝付土建)をはじめ、支部役員や事務所職員のほか、同校OB会の吉元孝一会長(元鹿屋市建設部長)も参加。東九州自動車道(大崎〜鹿屋)長瀬地区(第1工区)改良(吉留組)と、同第一串長川橋

ICT建機の搭乗体験を楽しむ生徒  
鹿屋市の現場



上部工(三井住友建設)の2現場を見学した。現場では、工事概要な

どの説明を受けたあと、ICT建機の搭乗体験や橋梁のボックス内でのビデオ講習など、普段入ることのできない現場内の見学を通じ現場の最前線を実感。建設業の果たす役割や生活基盤である社会インフラ整備を担う地元建設業の必要性に理解を深めた。

谷口支部長は、「土木を専攻する生徒たちに、施工中の現場を肌で感じてもらう、一人でも多くの卒業生が地元企業に就職し、技術者に育ってもらえれば幸い」と話した。